



西を豊かに

2015年
1月1日発行
第12号

発行者
新潟市西区自治協議会 会長 真嶋 民雄
事務局
〒950-2097
新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内
TEL: 025-264-7161 FAX: 025-269-1650
E-mail: chiiki.w@city.niigata.lg.jp

ロゴマークの意匠
西区の宝物をたくさん詰め込んだロゴマークです。新潟スイカ、赤塚大根、くろさき茶豆、佐潟の白鳥。その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽を乗せました。

内野コミュニティ協議会
加藤 惇一
安心で安全な住みよいふるさと
共に築こう内野町

西内野コミュニティ協議会
玉野 寛
何をすべきか・出来るか、
考え続けたい。

コミュニティ中野小屋
真嶋 民雄
みんな力を合わせて
地域力↑

コミュニティ佐潟
高島 圭介
地域の声を提言
暮らしを応援します。

坂井輪中学校区まちづくり協議会
長谷川 洌
協働の要の役割を果たすため
意見を述べます。

坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会
福島 富
市民の声を市政に届けられる
自治協議会に。

東青山小学校区コミュニティ協議会
笠原 哲男
あったかくて
笑顔あふれるまちに。

五十嵐小学校区コミュニティ協議会
山田 昌夫
地域の声をコミ協から
自治協へ運びます！

真砂小学校区コミュニティ協議会
大谷 勇
元気の出る地域づくりを
目指します

青山小学校区コミュニティ協議会
村井 良次
介護保険制度の改正は
地域に役割を期待している。

小針小学校区コミュニティ協議会
岩脇 正之
地域の
「安心、安全なまちづくり」
に取り組みます。

黒崎南ふれあい協議会
大谷 一男
自治協・ふれ協主導の
まちづくりを推し進めます。

大野校区ふれあい協議会
佐野 貞之
自治協・自治会の連携で
密着した行政を望む

立仏校区ふれあい協議会
斎藤 明夫
安心安全な
住みよいまちづくりを
目指します。

山田校区ふれあい協議会
松井 建吾
今だけ金だけ自分だけの
考え方を少し緩めた。

西区の皆さん、 年賀状です！

新年あけましておめでとうございます。やってきました2015年。皆さんの今年の抱負は何ですか？私がお届けするのは、地域コミュニティ協議会選出委員の皆さんからの年賀状です。「コミ協役員、自治協議会委員としての新年の抱負」と題して、それぞれの熱い思いが書かれています。どうぞご覧ください！



とっておきの私の一枚

- 一言コメント 毎年楽しみにしている、新川ほたるの夕べ。今年は電球も増え、一段ときれいでした。
- ペンネーム のっぺ



区長からの 年賀状

新年おめでとございませう。区長就任以来、多くの人との出会いがあり、新鮮な気持ちで区政運営に取り組んでいます。

また、美しい自然や、おいしい農産物など豊かな西区の魅力発信を進めています。公募区長として、このたび、関屋分水から新川までの海岸における飛砂対策を提案しました。飛砂被害の軽減を目的に、大学などと連携して、抜本的対策の研究を進める計画です。自然相手で一朝夕には達成しがたいと思いますが、将来に続く西区づくりを推進したいと思います。

今年も、区民の皆さまとともに、活力と笑顔あふれる西区を目指して全力を注いでいきますので、よろしくお願ひします。

西区長 眞島 幸平

●応募のきまり

・ククロスワードの答えと住所・氏名・連絡先・広報紙の感想・自治協活動への意見を簡単にお書き添えの上、郵送または電子メールで応募ください。

・正解者の中から抽選で20名に図書カード1,000円分をプレゼント！

・締め切り 平成27年2月末日(必着)

・送付先 広報紙1面の「事務局」あて

・当選者の発表は、発送をもつてかえさせていただきます。

【ヨコのカギ】

- 文化財や遺物の宝庫。新潟市埋蔵文化財センターの愛称は〇〇〇〇ポート。
- ちゃんとしていないと壁や柱にぶつかりますよ。
- 日本には春夏秋冬の4つがあります。
- 佐潟に行ったら、佐潟・水鳥〇〇〇センターへお越しください。
- 東京・名古屋・大阪をつなぐ〇〇〇中央新幹線。
- 百万石で有名な〇〇藩は、現在の石川県にあります。
- 動物の吐く〇〇には二酸化炭素が含まれています。
- 信用組合を略していうと?
- 小中学校の教科のひとつです。国語、算数、〇〇、社会...
- 雨上がりには7色のこれが見られるかも!
- 体に節がたくさんある虫なので〇〇〇〇というのだとか。
- お正月にもらえる、子どもたちにとって魅力的なものです。

【タテのカギ】

- 新川と西川の立体交差がある場所です。
- 三重県にある神社といえば、〇〇神宮。
- 2014年のノーベル〇〇〇〇〇賞。日本人3名が受賞しました。
- お正月のお飾りに使う木です。
- 現在、増便社会実験を行っている西区を走るJRの路線といえば〇〇〇線。
- 今日の〇〇〇は負けられない!

1	2	3	d	4	5	
6	e			7		
		8	a			
	9			10	11	
12			c	13	14	15
16	f			17	18	
		19		b		

答え

a
b
c
を
げ
d
e
f

- 宴会をまとめてくれる人のことです。
- 困ったときのとっておきの手段!最後の〇〇〇〇!
- 65歳以上の方のバス運賃が半額になる「〇〇〇半わり」社会実験中です!
- 新潟〇〇〇トンネルは新潟西港の港口部を結ぶトンネルです。
- 新潟県のサッカーチームはアルビレックス新潟。茨城県のサッカーチームは〇〇〇アントラーズ
- 秋の果物。新潟市でもつづっています。

新春お年玉付きクロスワードパズル

募集 しています

◆送付先/住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、広報紙1面の「事務局」あてに送付を。郵送または電子メールにてお願ひします。

◆あなたの「自慢の写真」(家族・ペット・風景・イベント等)に住所・氏名(氏名は必須、ペンネームがあればペンネーム掲載)・連絡先・写真タイトル・一言コメントを添えて応募ください(電子メール可)。◆採用者には千円の図書カードを贈呈。◆応募された写真は返却しません。◆締め切り2月末日(次号掲載予定)。◆送付先/広報紙1面の「事務局」あて。

編集後記

年が明けて希望にもえていることと思います。

本号は、各コミ協代表1号委員の年賀の抱負を掲載しました。また、区民から喜ばれた5つの提案事業を振り返った企画も掲載しました。興味をもってご覧いただけましたでしょうか。

年々歳々少しずつ、西区が明るく豊かになっていくことを念じています。

(大谷)

在宅でいつまでかは可能か？



昨年9月7日、黒崎市民会館において「上野千鶴子さんの講演会」が開催されました。「おひつりさまの老後」「在宅ひとり死」と決して明るい内容ではないですが、上野さんの軽妙洒脱なお話で、会場は、はじめから温かい笑いに包まれていました。

そんな中、死を迎える場所が「病院」から「自宅」に変化していること。「思い出いつぱいの家にいたい」というお年寄りの願いを実現するには、一人で暮らせる住まいの確保が必要だということ。そのために地域力をつけ、医療・看護・介護支援の連携を作ることが必要であるなどお話しされました。



満席の会場は、上野さんから頂いた元気と感動で溢れていました。



郷土料理でクイズと言語表現を楽しむ

昨年10月5日、みどり森の運動公園で開催された「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」にて、「おいしい！」を言葉に、特産品から考える味の表現と題し、ブース展示と食材当てクイズ、「味覚の言語表現」ステージイベントを行いました。

料理研究家丸山久子さんから、「素朴、繊細」「ホクホク、やわらかい」など言語表現の補足をしていたきました。あいにくの雨模様でしたが、秋のひととき、「のっぺ」を食べながら多くの人たちが楽しみました。

ステージイベントでは、小・中学生を対象にサツマイモやサトイモなどの食材を食べてもらい、その食材を当てるクイズを行ったほか、大人を対象として「麩すし」と「蓮の実ご飯」の味を上手く表現してもらった味覚の言語表現を行いました。ステージでは、解説の郷土



区民に喜ばれた5つの提案事業

提案事業は地域課題の解決に向けて、自治協議会が企画し、主体的に取り組む事業のことで、区の予算でまかなわれています。西区自治協の平成26年度の5つの提案事業が昨年9月から10月にかけて取り組まれ、多くの区民、市民から喜ばれました。



いい汗流して地域喜ぶ“瀉普請”



西区自治協議会は平成24年3月に「地域との協働による佐瀧の保全活動の推進」を市に要望してきましたが、その思いを形ですすめたいと9月21日の第17回瀉普請に参加しました。当日は真嶋会長を先頭に11名の自治協議委員と眞島区長をはじめ13名の区役所職員が「下口上げ」「ヨシ運び」の作業に汗を流し、地元の方々から大変喜ばれました。

大成功！第2回アートフェスティバル 音楽を堪能した一日



10月26日「西区アートフェスティバル」が黒崎市民会館で開催されました。合唱、合奏、芸能・ダンスの部で中学校、高校、大学、公民館利用団体のほか、個々で活動している団体が出演しました。今回初めての箏曲、ダンス、オカリナ、津軽三味線も私たちに大きな感動を与えてくれました。この素晴らしい演奏・演技



は、皆さんの毎日の練習のたまものです。いろいろな方々がいろいろなスタイルで表現しましたが、これこそ「西区の宝」です。そして子どもからお年寄りまで、来場した644人が笑顔になりました。今年も「第3回アートフェスティバル」を楽しみにしていただきます。

いくつになっても絵本を読もう！



講演会では、人気絵本「ばばあちゃんシリーズ」の作者さとうつきさんから絵本ができるまでのエピソードやご自身の生い立ちなどをお話しいただきました。さとうさんは子どもの頃肺結核を患い、外で遊ぶことができずラジオで落語を聞いて楽しんでいたそうです。「自分の体験が絵本の中で表現されている」との言葉どおり、スキー道具を担いで山を登った経験から描かれた絵本もあります。講演会の前に行ったワークショップ「ばばあちゃんへのや」では、読み聞かせが始まると子どもたちがじっと絵本を見つめていました。良き友のように寄り添い支えてくれる絵本。この機会にお気に入りの本を探してみるのはいかがでしょうか。



昨年9月23日に「絵本を楽しむ秋のひととき」と題して、講演会とワークショップを行いました。